

平成22年度 鷲敷中学校「学力・学習状況」改善プラン

本校では今年度も、学力向上に向けた取り組みを継続し行っています。昨年度の評価をふまえ鷲敷中学校版としての「学力・学習状況」の改善に向けたプランを立てました。そのプランを実行し、評価し、評価に基づいた改善を行う P(plan)、D(Do)、C(Check)、A(Action)のマネジメントサイクルを生かした教育活動を展開しています。

保護者のみなさまにも本校の取り組みにご理解をいただき、ご協力ご指導をお願いします。

1 学力・学習状況の課題と取り組み

学 力	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎的・基本的な知識・技能」の定着を図るため個別指導に重点を置いた指導を行いながら、「基礎的・基本的な知識・技能」を学習や学校生活のさまざまな場面で活用させる。 ・学習活動については真面目であるが、受け身の学習姿勢の生徒も多い。自主的主体的に学習に取り組む意欲を育てたい。 ・筋道を意識した文作りや意見をまとめることが苦手なため、授業・集会等での積極的な発言ができない生徒がいる。表現力や発表力の育成に取り組みたい。
学 習 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した「定期テスト前の家庭学習の調査」では、1日の平均学習時間が2.4時間であった。定期テスト前の学習時間としては少ない。家庭での学習習慣に課題が見られる。 ・授業の準備物や提出物が揃いにくい生徒がいる。生徒に学習環境を整えることの大切さを伝え、保護者の協力を得て改善していきたい。

2 学力・学習状況の改善に向けた目標及び具体的方策

(1) 学力について

重点目標： 基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、自信を高め、自己表現力の向上につなげる。		
具体的目標	数値目標	具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎的・基本的」内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、計算、英単語テストなどで、8割以上を合格とし、8割の生徒の合格をめざす。 ・定期テストの基礎的内容に関して、到達度を設定し、8割以上の生徒を達成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字・計算・英単語」の自主学習の習慣化を図り、授業などで確認テストを実施する。その結果個別指導が必要な生徒には、朝、昼、放課後を活用し指導する。 ・「基礎的・基本的」内容を明確化し指導する。 ・TTなど指導方法の工夫改善を図り、授業中の個別指導をこれまで以上に効果的なものにする。 ・授業内容の補完を意識した家庭での学習課題を設定し、習慣化する。 ・セミナー学習を充実させ、「基礎的・基本的」内容および学習習慣の定着を図る。 ・授業ノートの定期的な点検を行い、学習内容のまとめ方の指導を通して、すべての生徒に授業を大切にする意識をもたせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたことを適切に「書く力」を身につけさせ、他者の意見と比較するなど、表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒集会での発表回数を増やし、内容も深める。 ・言語活動(「話す・書く」)の評価に関して、年度末には年度当初より個々の生徒をアップさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒集会での発言に関して内容を深めたり、息の長い発言を促すなど、機会を捉えた適切な指導を行う。 ・授業中に発表の機会を設けたり、グループ学習で意見交換場面を設定するなど、主体的に取り組む場面を設定する。また、さまざまな資料から必要なものを選び出したり、自分の意見や観察結果等を「書く」時間を設けたりする。

(2) 学習状況について

重点目標： 家庭学習の習慣をつける。		
具体的目標	数値目標	具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」を参考に学習方法を工夫させる。 ・自主勉強の定着を図る。 ・宿題のチェックをし、根気強く指導する。 ・家庭学習時間や学習状況の調査を行うなど、意識づけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8割以上の生徒が「手引き」を活用できる。 ・自主勉強ノート提出者8割以上をめざす。 ・宿題チェックを行い、提出者8割以上をめざす。 ・学習習慣に関するアンケートを4段階の自己評価形式で行い、その結果、8割以上の生徒を「概ねできた」以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「鷺中版家庭学習の手引き」を作成し、生徒に学習方法の定着をめざした支援をする。 ・毎朝のチェックを欠かさず行い、添削を加えたり、よいノートを紹介する等の工夫をし、意欲付けを行う。 ・宿題をする習慣をつけさせるための根気強い指導を行う。 ・毎日生活記録に家庭学習時間を記入させる。期間を決め学年毎の平均時間を計算し、知らせるなどして意欲づけを行う。 ・全生徒対象の学習習慣に関するアンケートを実施し、自己評価によって、自分を振り返らせる機会とする。 ・個人面談などの機会を生かして、保護者にも協力を依頼する。